

北村喜八 きたむら 演出家、劇作家、翻譯家。明治二十一年十一月十七日石川縣生れ、昭和二十五年十一月十七日没（一九六〇）。大正十二年東京帝國大學文學部英文科卒。築地小劇場に參加し、雜誌『劇と評論』編輯同人となる。昭和十二年妻の俳優村瀬幸子と藝橋小劇場を結成主宰。戦後新演劇人協會常任幹事、國際演劇協會日本支部初代理事長など。

譯書、ゲオルック・カイゼル作『朝から夜中まで』（大正十二年五月）

『二十二年新潮社「泰西戯曲選集」』、

エーヂン・オニール作『長い歸りの船路』

（大正十二年六月）千八百新潮社

『海外文學新選』、エレンスト・ト

ルレル作『獨逸男ペンタマン』（大正

十二年十一月八日新詩壇社）、チャペク兄弟（ヨセフ・チャペク）作

『蟲の生活』（大正十四年十一月）千八百原始社）、レオニイド・ア

ンドレエエフ作『横の面をはられる彼』（能澤復ハ共譯、大正十五年

一月）千二百原始社）、ヤウグスト・ストリンドベルク作『平船なき

者』（大正十五年七月五日原始社）原始社『レインレット』（シヨウ

ズワアジイ作『英吉利及愛蘭戯曲集』（共譯、昭和二年四月）千二百新

潮社『世界文學全集』、エレンブルク作『新撰文學集』（共譯、昭

和四年四月）千二百新潮社『世界文學全集』、ハリ

・フテナガン著『現代の歐洲演劇』（歐洲各國・ソザ

イエト演劇見聞記）』（譯編、昭和六年九月十九日

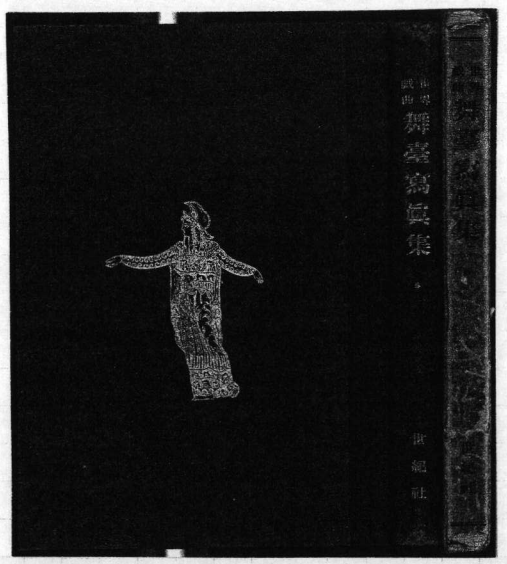
白百合書房）、ドライサー・ロンドン作『シエニー・ゲルハート 白百合』



(高垣松雄共譯、昭和六年十一月六日新潮社「世界文學全集」)、
 ラスコ作「お膳夫人(一幕物集)」(昭和十二年二月九日新潮社「新
 潮文庫」)、ジャック・ロンドン作「白く牙」(昭和十五年八月十六
 日新潮社「新潮文庫」)、ユージン・オニール作「あゝ荒野」(昭和
 二十二年五月二十日文藝春秋新社)等。

著書、歌集「こゝろの歌」(大正九年九月一日血蔭社)、
 「表現主義の戯曲(自我の醜態と觀念の戦)」(大正十二年十月十日新詩壇社
 「藝術研究叢書」)、
 「新」の演劇へ」(内題「新」の演劇へ」大正
 十五年十月二十五日原始社)、
 「海外戯曲鑑賞讀本」(小山内薫共編、
 卷壹―古典上篇・大正十五年十月二十五日、卷參―近代上篇・昭和一
 年一月二十日新詩壇社)、
 「世界
 戯曲
 舞臺寫真集」(内題「世界
 戯曲舞臺寫
 真」編、昭和六年二月二十五日世
 紀社)、
 小山内薫著「芝居入門」

(補、昭和十四年十月二十日、特
 裝版・五十七年二月十九日岩波書
 店「岩波新書」)、
 「素人演劇講
 座」(合著・池谷作太郎編、昭和十六年九月二十七日日本文化中央聯
 盟)、
 「美」の家族」(昭和十七年七月八日文園社)、
 「近代日本
 文學研究大
 正文學作家論・上卷」(合著・
 佐藤春夫
 宇野浩二監修編纂、昭和十八年九月五
 日小學館)、
 「大東亞百年史(全二部)」(勤勞黨
 文化厚生部「勤勞
 黨合作・坪内十行解説、昭和十九年二月大政翼賛會文化厚生部「勤勞
 黨能指導資料」)、
 「演出入門」(昭和二十一年八月十五日霞ヶ關書



藝能指導資料」)、
 「演出入門」(昭和二十一年八月十五日霞ヶ關書

房)、ロヨールロッパ演劇巡禮』(昭和二十六年十一月一日日本教文社)、『戯曲作法』(昭和二十六年六月五日同社春秋社)「文芸教室作」方論」(等。